

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第130号

〔2022年2月発行〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。  
JAMより、2022年2月号の会報をお送りします。

JAMは2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。支援者の皆様へJAMの最新の活動を2カ月に一度、会報メールにて発信いたします。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## <目次>

現地（メソト）から

国内から

編集後記

次号の予定



現地（メソト）から

【メソト：東山】

2022年2月1日。ミャンマーでクーデターが起きて1年が経ちました。「2月1日」という日は「1988」という数字と同じくらいの深い傷となって多くの人々の胸に刻まれていることと思います。昨年の今頃、私自身もショックが大きすぎて何も手につかなかったのがつい昨日のこのように思い出されます。メディアでは数日に渡りミャンマー特集が生まれ、皆さまの中にもご覧になられた方がいらっしゃると思います。ヤンゴンの都市部では以前のようにデモ隊や軍が町中を行き交うことはなく、子どもが遊ぶ姿もみられ、一見穏やかな日常を取り戻したかのような光景もありました。しかし、今は大きなデモでの抵抗ではなく「沈黙のストライキ」として一斉に外出を控え、経済活動を停止させるといった静かなる抵抗が繰り返されているとのことです。

そして、軍からの攻撃は村への空爆として今も広がり続けています。先日もモエイ川を挟んで国境沿いに位置するLay Kay Kaw（レイケイコー）とその周辺の村へのビルマ軍の襲撃がありました。約10,000人が逃げ、そのうち約4,000人がタイ側に避難したと推定されています。しかしながらタイ側の一時避難所や食糧支援は一定期間をもって完全閉鎖。襲撃されたLay Kay Kawはビルマ軍が占拠し、避難民は村に戻ることも、タイ側に避難することもできず、モエイ川の中州には約2,000人がテントやプラスチックシートで作られた簡易のシェルターで滞在することを余儀なくされているとのことです。また、銃撃といった命の危険に晒されると同時に、高齢者や子どもは感染症をはじめとする健康被害の危険にも晒されています。メータオ・クリニックを含む複数の人道支援団は十分な物資や人材確保が難しい中、各民族医療団体の要請にできる限り応じています。



(写真：モエイ川の中州で滞在する避難民)



(写真：Lay Kay Kaw での激しい砲撃の影響を受けた避難民に医療を提供する医療従事者ら)

政治犯支援協会 (The Assistance Association for Political Prisoners, AAPP)によると2月14日時点で犠牲者1,549人。こうして記事を書いている間にも犠牲者の数字は止まることなく更新され、突きつけられる現実に何とも言葉にできない気持ちだけが募ります。

2018年、私は日本ビルマ救援センター (BRCJ) によるタイ・ビルマ国境訪問にて、メータオ・クリニックを訪れた際、モエイ川も訪れました。物乞いをしようと私たちに一斉に駆け寄ってきた子どもたちに服を引っ張られながら見たモエイ川の景色。それは、タイ政府の監視下で船が行き交う様子でした。そのときに沸き起こった感情。社会のあらゆる闇を肌で感じたことを覚えています。今はまだ日本で限られた情報しか見聞きしていませんが、現在のモエイ川に佇む多くの人々を実際に目にしたら、自分の心はどんなふうに反応するのだろうか、と怖くもあります。そして、そのときははいよいよ目の前に訪れようとしています。

一時帰国中であった現地派遣員・有高が今月12日に無事渡航いたしました。新型コロナウイルス感染拡大を受けた渡航規制やビザ審査の強化などにより再渡航が遅れていましたが、タイ入国後は今のところ順調にメータオ・クリニックに向かっていきます。そして、東山も有高を追いかけて、準備が整い次第3月上旬には渡航予定です。

昨年はタイ全土で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった時期にメータオ・クリニックでもクラスターが発生し、一時は患者さん、スタッフやその家族にまで感染が拡大しました。現在も一日数名の陽性者が発生しており、依然油断は許さない状況ですが、ワクチン接種や抗原検査を進めるなど、今まで以上に感染対策に努めているとのこと。東山はこの度初めて現地派遣員としての赴任となります。メータオ・クリニックの目の前で困っている方を無条件に無償でケアをするという医療本来のやさしさを実現していることに感銘を受け、JAM とつながり今に至ります。至らぬ点は多々あると思いますが、少しでもメータオ・クリニックの皆さんと協働できるよう、ミャンマー移民の方々の支援につながるよう、そしてご支援いただく皆さまに現地の声を届けていけるよう有高と果敢に臨んでいきたい気持ちです。今後も皆さまからの変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



国内から

【日本事務局：竹内直志】

腸と薬の話

「病気になったら薬を飲む」というのは古くから行われている医療行為であり、現在も病院に行けば当たり前のように薬を処方される。しかし、実は薬がどのように症状を改善するのか、詳細なメカニズムがわかっていないことのほうが多い。古くから使われている薬のほうがその傾向が強く、例えばステロイドは多くの疾患で未だに切り札のように使用されるが、その作用は多彩な作用機序は完全に解明されていない（多彩な機能がある反面、副作用も多い薬剤である）。最近では分子標的薬という、特定の分子機構に着目した化合物が薬剤として開発・販売されるようになったが、それでも想定外の副作用、つまり、未知の反応を起こすことにより、上市を断念するというケースがあつとを絶たない。このように、薬の機能を正しく知ることが医療従事者にとっても医学研究者にとっても大切なことである。今回、私のエッセイではその薬と腸との関係についてご紹介したい。

通常、飲み薬の場合だが、薬は口から体内に入り、腸で吸収されることで、体内の標的に作用する。これはどの教科書にも書いてある事実である。しかし、腸は多彩な機能を持っており、薬がその作用を受けることもわかってきた。代表的な影響は食事である。食後に飲む薬、食前に飲む薬、と使い分けを耳にされたことがあるかもしれないが、胃腸に食事内容があることで吸収効率が増える可能性があることは知られている（ほとんど影響を受けない薬も多い）。また、腸には消化液の一種である胆汁が排泄される。この胆汁は一般的に脂質成分の吸収を促進する効果があるのだが、薬剤成分も同じように吸収スピードが増えるようだ。

このような作用だけでなく、ここ10年程で、腸管内に生息する細菌が薬の代謝や吸収効率にも多大な影響を与えることがわかってきた。腸内細菌はヒトの遺伝子機能の数100倍を超える機能を有しており、栄養素の吸収に大きく関わることは知られているが、まだまだ未知なことが多い。例えば古くから心臓病に使用されているジゴキシンという薬剤がある。この薬は元々効果が個人で異なることが知られており、更に血中濃度の変化により容易に副作用を起こしうるため、使用することが難しい薬剤の一つである。2013年にScienceに報告された研究によれば、このジゴキシンが腸内細菌の一種によって不活化されるとのことである(Haiser et al., Science 2013)。また、2019年にはパーキンソン病の重要な薬剤であるレボドパを代謝する腸内細菌の存在も明らかになった(Rekdal et al., Science 2019)。Enterococcus faecalisという細菌の多寡によりレボドパの代謝をある程度予測できる可能性も示された。これらの研究を含む多くの研究により、単純に口から入り体内へ吸収されると思われていた多くの薬剤が、実は腸内の細菌によって活性化されたり、もしくは不活化されたりすることで、効果発現に大きな影響を及ぼすことが明らかになった。

更に、最新の研究をもう一つ紹介したい。腸内細菌は薬を分解することでその活性を変化させるだけでなく、文字通り「食べる」機能も持つらしい(Klünemann et al., Nature 2021)。この研究ではうつ病に使用されるデュロキセチンがある種の腸内細菌によって取り込まれ、化学的に変化しないまま細菌内に保存されることを示した。このような特性を持つ細菌をモデル生物に定着



させると、デュロキセチンの効果が減弱し、モデル生物の行動に変化がみられたとのこと。やはり細菌は多種多様な方法で薬に影響を与えるようだ。

これらの知見はまだ研究段階のものである。しかし、腸の影響、特に、そこに生息する細菌の影響をつぶさに解析していくことで、将来的には個人にとって適切な薬剤設計が可能になる可能性がある。薬が実は様々な要因によってその効果が決まっていることを知っていただけると、普段何気なく飲んでいる薬の見え方も変わってくるのではないだろうか。

## 編集後記

ミャンマーでもいよいよオミクロンが猛威を振るい始めました。2月15日現在、新規感染者は1日2500人に達しようというところ…ですが、実はそれよりうんと多いのは周知の事実。というのは、公立病院の検査で陽性になると強制隔離されるし、私立病院は検査費用が高いし、それなら薬局で迅速検査キット（約200円）を買って自主検査しよう、という人が圧倒的に多いからです。かく言う私も、すでに濃厚接触などで3回自主検査をしました（自分の鼻にスワブを入れると、つい痛くないように手加減してしまう…）。皆様もお気をつけて！

## 次号の予定

次号は、4月下旬ごろ配信の予定です。

最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さい、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。

支援の輪が広がっていきけるよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年      【学生会員】1,825円/年      【法人会員】36,500円/年  
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。





NPO法人メータオ・クリニック支援の会  
Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て Eメール	support@japanmaetao.org
JAMウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。 <a href="https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/">https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/</a>
Instagram	<a href="https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/">https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/</a>
Twitter	<a href="https://twitter.com/japanmaetao">https://twitter.com/japanmaetao</a>

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

